



た白血病の子どもがいて、お母さんの所にお悔やみにいったら、彼女が「忘れられない人がいる」と言うんです。高度医療をやってくれた先生方の名前、お母さんは覚えていて全部言えました。ドクターにも感謝している。それでも忘れられない日本人がいる。それは、一人の若い看護師さんでした。

その若い看護師さんは、骨髄移植のあと敗血症でモノが全く食べられなくなった息子さんに「何食べたい？」って何度も聞いてくれた。そしたら、彼は「パイナップル」と言った。でも、そこはベラルーシ共和国、北の貧しい国。パイナップルなんて手に入らないんです。

でも、それを聞いた日本の看護師さんは、2月、マイナス20度の町をパイナップルを探して歩いた。「パイナップルありませんか？」ないですよ。でも街中の噂になった。医療で治すだけでなく、子どもが熱にうかされて口走った言葉を真に受けて、雪の中をパイナップルを探してくれる日本人に、町の人たちが感動したんですね。

小さなあたたかさは、小さなあたたかさの連鎖を生みます。パイナップルの缶詰が届きます。息子はおかげでパイナップルが食べられた。それをキッカケに息子は奇跡のように元気になって退院した。10ヵ月後、白血病が再発してうちの子は死んだ。すごく悲しいけど、雪の中、パイナップルを探して歩いてくれた日本人がいたことを私たち家族は絶対に忘れないと。

みなさんの応援が必要です！

人間と人間が生きるというのはそういうことなんです。医師や看護師や患者さんが共同作業でひとつのチームとなって、一

緒になって一生懸命病氣と闘う。助けて上げられることは9割あったとしても、助けて上げられないことが1割あるかもしれない。それでもコレだけの事をしてもらえた、と思える医療が地域にあったら…。

結局、満足できるかどうか、納得できるかどうか、これでよかったと思えるかどうかが一番大事なんだと。多分この地域には友愛記念病院ができて、ここはこれからそういう全体の流れの中で皆さんの命をあたたく支える病院になっていくと思います。

そこには、皆さんの応援が必要です。箱物はこれで出来たから、とてもよい病院になれるスタートは切れたけど、これからです。この病院が、これから本当に皆さんが信頼できる病院になるには、皆さんの力も必要です。皆さんの目がいつもある。上手く行かなかった時には、ここに来て皆さんが言ってください。皆さんがこの病院を盛り上げて、そして少しずつ良くしていく。

そうすることできっと5年後、そうした力が大きくなって、いい病院になっていくと思います。その頃また、見に来ます。

鎌田 實(かまた・みのる)先生プロフィール

1948年東京生まれ。東京医科歯科大学医学部卒業後、長野県の諏訪中央病院に赴任。以来、一貫して「住民とともに作る医療」を实践。現在は、諏訪中央病院名誉院長、チェルノブイリ連帯基金理事長、東京医科歯科大学臨床教授、東海大学医学部非常勤教授。2001年と2004年に西田敏行主演でTVドラマ化され話題となった「がんばらない」(集英社)他、著書多数。

この鎌田實先生の特別講演をノーカットで収録したDVDを作成いたしました。ご希望の方には貸し出しいたしますので、総合案内センターまでお申し出ください。

